

科の説明

麻酔科では手術中の麻酔を管理するだけでなく、周術期を管理することによって患者の予後をよくするということを目指している。従って、これに則した術前管理、術中の麻酔管理、術後管理をしっかりと構築していかなくてはならない。ただ、マンパワー不足のためすべての全身麻酔症例を管理できないため合併症のある症例や侵襲の大きい手術症例、小児等を中心に麻酔管理をしている。研修医には短い研修の中で全身管理の大切さと基本的な手技ができるように指導している。

一般目標

手術患者の周術期管理において、術前における全身状態と合併症の評価を的確に行い個々の患者に合わせた最適な麻酔計画を立案する。実際の麻酔施行時に気道確保、挿管、末梢静脈路確保等を行い心肺蘇生法の基本手技を習得していく。また、麻酔中の呼吸管理、循環管理を理解できるように努力する。手術後の呼吸管理、循環管理、疼痛管理を通して周術期全体を評価できるようにする。周術期のチーム医療の大切さ、重要性を身に付けていく。

行動目標

- 1) 術前において患者の既往歴、現病歴、検査結果、診察所見より患者の全身状態を把握し正しく評価できる。
- 2) 個々の患者に合わせた最適な麻酔計画を立案できる。
- 3) 麻酔器の基本構造を理解し、正しく始業点検ができる。
- 4) 麻酔薬の種類を知り薬効を正しく理解している。
- 5) 麻酔薬を適切に投与できる。
- 6) 麻酔中の様々なモニタリングを装着することができ、値を正しく評価できる。
- 7) 麻酔管理としての呼吸管理が理解できる。
- 8) 循環作動薬を理解し使うことができる。
- 9) 麻酔の重要性、危険性を理解できる。
- 10) 術後患者の状態を正しく評価できる。
- 11) 患者本人そして家族に真摯な態度で接することができる。

経験目標

- 1) 気道確保ができる。
- 2) 気管挿管がスムーズにできる。
- 3) エアウエイスコープを使うことができる。
- 4) 末梢静脈路を確保できる。
- 5) 動脈穿刺ができカテーテル挿入もできる。
- 6) エコー下中心静脈穿刺ができる。
- 7) 硬膜外穿刺ができる。
- 8) 脊椎穿刺ができる。

指導体制

症例ごとに研修医は指導医に付き術前から術後まで手術の周術期を管理していく。指導医は丁寧に説明と指導を行っていく。

週間スケジュール

曜日	時間	予定	場所
月曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
火曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
水曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
水曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
水曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室

毎日、麻酔終了後に翌日の麻酔症例検討会を行っている。

定例研修会等

会名	世話人	開催曜日	会場
気管切開Wet lab	麻酔科	毎年秋頃	実習室
超音波ガイド下CVCセミナー	麻酔科	毎年秋頃	実習室

具体的な研修方法・留意事項

- 1) 朝、8時30分に手術室の麻酔科室に集合し翌日の症例の術前を指導医とともにする。
- 2) 病棟より帰室し、電子カルテより術前回診・麻酔計画文書を作成する。同時に絶食・絶飲指示、前投薬、麻薬をオーダーする。その後手術室の薬品準備表を作成する。
- 3) 整形外科、耳鼻科、泌尿器科、産婦人科、形成外科、眼科はそれぞれ各科外来で術前をするため準備をして術前に臨む。
- 4) 当日の麻酔は指導医とともに麻酔計画に沿って進める。麻酔器始業点検、麻酔薬の準備、挿管準備等手早く準備しておく。
- 5) 麻酔は指導医とともに行い、基本的な手技を覚えながら麻酔管理の内容を把握して呼吸管理、循環管理などを通して全身管理を理解していく。
- 6) 麻酔終了後帰室した患者の状態を正しく評価できるようにする。
- 7) 研修終了直前に自分で実施した麻酔症例の中からテーマを決めてレポートを作成し発表する。